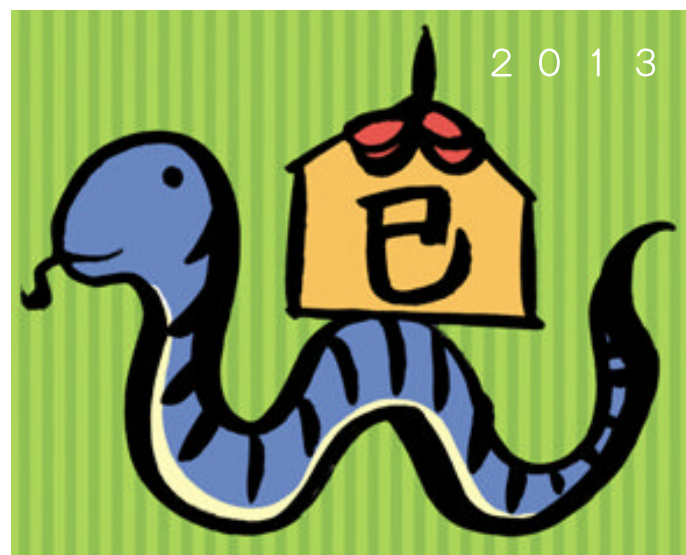


インターネット俳誌／SEIGETU

清月



第150回 平成25年 1月

謹んで新年のお祝いを申し上げます
昨年中は多くの作品を拝見できましたことを嬉しく思います
本年も皆様の作品を拝見できますことを楽しみにしています
皆様のご健康とご健吟を心よりお祈りいたします

平成二五年元旦

清月庵主 野田ゆたか



最近、月例会報を印字してペーパー保存されている会員がいらっしやることを知りました。

インターネットページの印字は、その体裁がよろしくありませんので、印字用にPDFによる紙誌形式のこの句会報をアップさせていただくことにいたしました。

このPDFは、普通(A4)印字の二つ折りで句誌の形態になるようにしています。
この紙誌は、時間の許す限り毎月二十日頃にはアップしたいと思っています。

発行者 野田ゆたか

寒椿

野田ゆたか

寒椿寺苑の黙をほどきゆく
添ふ影の雪女郎めき町更くる
四日早や常の暮らしに嫁が君
雲一朶かかる生駒峯初景色
粹筋のついで詣での礼者かな

雑詠

ゆたか選

(太字は秀逸句)

初御籤陽あたる枝に結びけり 千葉清水恵山
寒月にぬれて薑や町眠る
嵐の夜明けて静かな雪の街
荒れし手にクリーム延びる春隣
箒目の揃ふお寺や日脚伸ぶ
つつんと満天星紅の冬芽かな 吹田池下よし子
メレンゲの角のたしかや寒卵
春待つや小さき靴の歩み初め
寒満月言の葉裏を見透かさる
毛糸玉母の解きゆくサスペンス

騎初のまだ黎明の厩舎かな 岡山橋本幹夫
悴める五指で応ふる栄誉礼
凍鶴を見て鋭角の鶴を折る
梯子乗り聞けば母校の体操部
成人の日に礼装の自衛官
奥飛騨や屋敷回りに楢積みて 岐阜石崎そうびん
綿虫の群れにわが顔曝しけり
岩に跳ね草に沈める木の実かな
渡月橋渡り終れば夕時雨
二つ三つ星落ちさうなくさめかな 静岡渡邊春生
焼芋の暖をしばらく楽しめり
御詠歌の声大寒の大師堂

薄荷飴ポケットにある達磨市 静岡渡邊春生
コーヒーの香るリビングぼたん雪 山梨湯沢正枝
会うことの楽しき仲間初句会
冬苺身の上ばなしをこと細か
記念樹の臘梅いまも匂ひ立つ
ボーカルの指先踊る冬帽子 千葉田村公平
バスを待つ下校の子等に日脚伸ぶ
赤土を持ち上げ光る霜柱
餅つきの音より子らの騒がしき
鮮度良き黄身持ちあがる寒卵 三重山口美琴
久方の晴間に集ふ寒雀
初鏡をんな三代賑はひて

寒見舞喪にあることを詫びられし 三重山口美琴
授かりし干支杯に注ぐ年酒 大阪木村宏一

冬登山明石海峡遙かにす
大寒も捕獲巧に川鶉かな

碧空に白さ気高し富士の雪 愛知駒田暉風

嬉しきは上りの一くべ冬の風呂

裏白の半ばは反りて七日かな

寒風をだうにも出来ずに走り抜け 愛媛石川順一

味噌汁と鰯の夕餉にハンデル語

寒風やポストは個性的なもの

おくれ髪結ひて晴れ着の君遠く 山梨志村万香

薄化粧して初雪の富士聳え

生き様の迷ひ消えたる冬桜 山梨志村万香

溝切の農夫の背や日脚伸ぶ 兵庫堤千鶴子

凜として一輪の梅魁けり

一年の無沙汰をわびる賀状かな

畝合になほも解けずに初氷 大阪森戸しうじ

寒林のなかに探して鳥の会

水仙の香り求めて歩をのばす 千葉筒井省司

人日やすでに余生となりにけり

鎮魂の錨に錆や冴返る 山溪

採りたてをさつと刻みて根深汁

立春の日差し集めて茶を汲みぬ

寸感

ゆたか
恵山

初御籤陽あたる枝に結びけり
枝を選んでのお神籤の返納。お神籤の内容はさておき、作者のこの一年のご活躍に陽が当たりますよう期待いたします。作者の気持ちの前向きに出ていて好感句。

つんつんと満天星紅の冬芽かな よし子

四月頃に咲く花は白色であるが一二月頃（関西）の花の冬芽は紅色をしている。

冬芽の様を端的に描いたシンプルさが見事。

畝合になほも解けずに初氷 しょうじ

もう消えたと思っていた初氷が畑に残っていた。いよいよ本格的な冬を迎えるという作者の思いが伝わってきます。

作句に対する佳い姿勢が伺える佳句。

鎮魂の錨に錆や冴返る 山溪

岡崎市岡崎公園にある殉国英霊の碑前に置かれた旧戦艦の錨の景。錆ゆくばかりの錨に寒さと一抹の淋しさが伝わってきます。山溪さんらしい佳句。

騎初はまだ黎明の厩舎かな 幹夫

新年の明け方の清々しい空気と愛馬の息づかいが心地よく伝わってくる佳句。

添削

ゆたか

原句 大茶盛三人がかりで飲み干せり

大茶盛は奈良市の西大寺及びその分流の寺で行われていますが俳句季題としては認められていませんので原句は無季。

四月に行われることから春の季題を入れます。

添削句 春昼や三人がかりの大茶盛

清月俳句会のホームページ
<https://haiku575.info/seigetukai/home/homu.htm>

清月句会 一五〇回
平成二五年 二月二〇日発行
主宰兼編集 野田ゆたか
発行所 大阪清月庵